

このまちの100年

「岐阜」

戦国時代、織田信長が稲葉山城の城主になると岐阜城へ改称、岐阜の地名の興りとなりました。江戸期には商工業の街として発展、明治に入り岐阜県が誕生すると県庁所在地となり、現在も県の行政の中心地となっています。



大正期

大正4年に架橋された四代目長良橋。路面電車が通っていた



昭和10年頃

写真は神田町(長良橋)通りの柳ヶ瀬付近。岐阜県初の百貨店、丸物 岐阜店は昭和5年に開店した



昭和10年頃

にぎわう柳ヶ瀬通り。右奥に前掲の丸物 岐阜店が見える。昭和52年に京都近鉄百貨店となり平成11年まで営業していた



昭和30年代

水道山から俯瞰した岐阜市内。昭和20年の岐阜空襲から復興を遂げた。右の太い道は若宮町通り



昭和30年代

昭和30年に開業した金華山ロープウェイ



昭和40年頃

岐阜駅北口の駅前風景。名鉄岐阜市内線の路面電車が見える

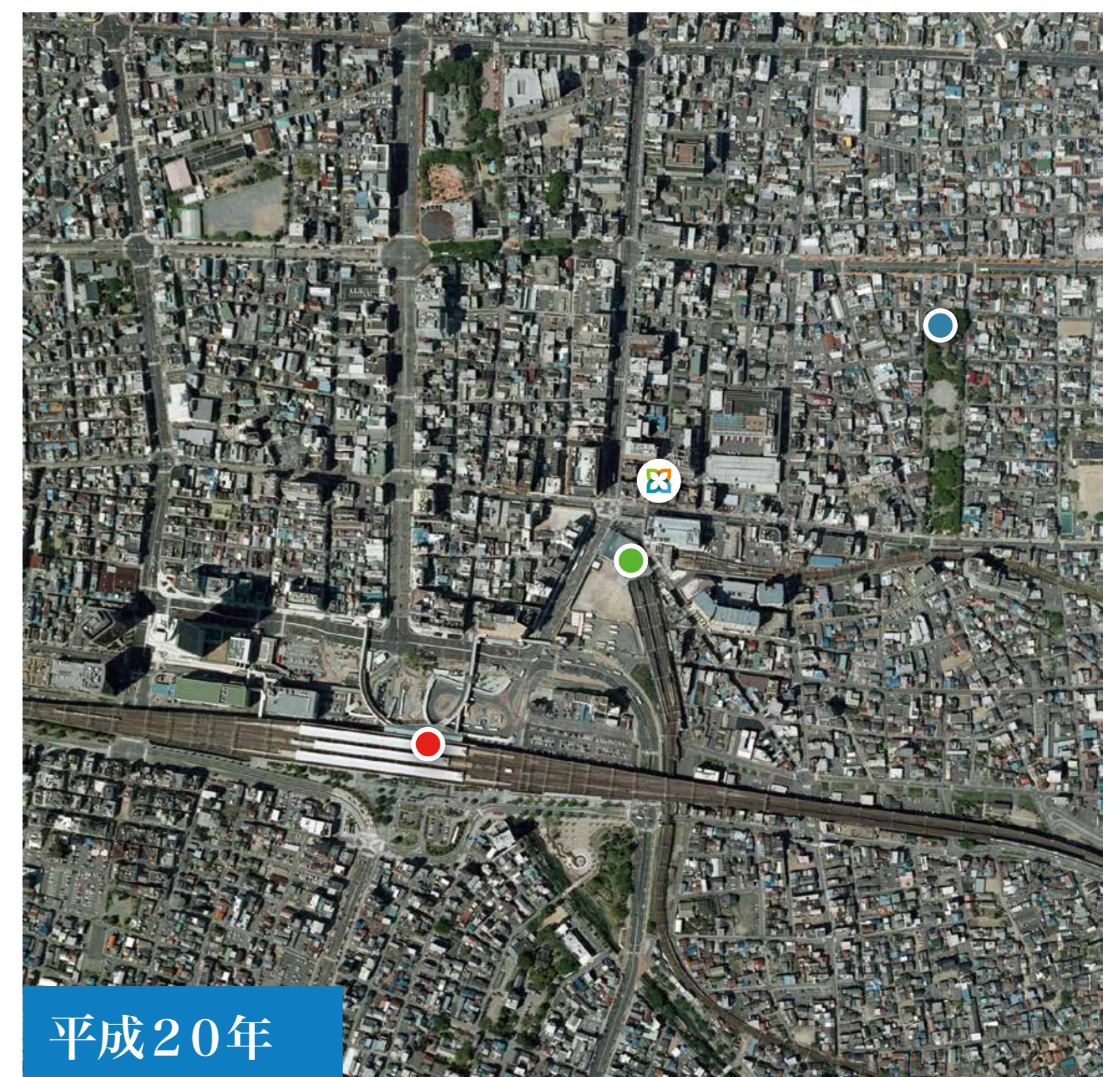
上空からみた岐阜エリア



昭和23年



昭和50年



平成20年

: 現在地
 : 溝旗神社 : 新岐阜駅/名鉄岐阜駅 : 岐阜駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロモチ